

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)	博物館 電話042-750-8030 (直通)		
開催日時	令和4年10月28日(金) 午前10時～正午		
開催場所	博物館 1階 小会議室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	5人(佐々木館長、外4人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	(1) 令和2年度・3年度相模原市立博物館活動評価書について (2) その他		

議 事 の 要 旨

(1) 令和2年度・3年度相模原市立博物館活動評価書について

評価方法、及び活動評価書について、事務局より説明を行った。

(岩野委員) 定量評価について、数字も必要であるがグラフ化すれば一目瞭然で分かりやすい。

(事務局) 対応する。

(浜田委員) 市民の会の数が減っているようだが、コロナ禍で活動ができず解散したのか。

(事務局) コロナ禍が直接の原因というよりも、会員の高齢化により会を維持するのが難しくなったことが要因の一つである。新型コロナウイルス感染症拡大による活動ができなかったことも解散に拍車をかけたと思われる。いったん活動を休止していたが、今年度活動を再開した団体もある。

(大貫委員) 「5年間の推移から見る今後の取り組み」に「運営そのものの見直しを図らなければならない状況になっていった」とあるが、コロナによって博物館の運営を変える必要があるのか。

(事務局) 長期にわたる休館で、展示を見ていただくという形の活動ができなくなり、もちろん収集や研究などは続けていくとしても、活動の大きい柱である教育普及事業について、代替えのものを考える必要が出てきたという意味合いで記載したもの。

(大貫委員) 博物館は展示施設であると考え市民がいるので、という意味なのか。

(事務局) もちろん収集・保存や調査・研究も博物館の主要な活動であるが、それらの成果を来館者に見せるという形のところが欠けてしまったため、代替として、どのように、どうしていくかを考える必要が新たに発生したということ「運営そのものの見直し」と表現した。

(大貫委員) 博物館は展示施設ではなく、活動を公表する手段の一つが展示である。外に出れば、花が咲いていたり鳥が飛んでいたりするし、遺跡もあるので、それを市民の生活の中で活かすことができれば、それが博物館活動である。

(事務局) この部分については、言い回しを変更する。

(岩野委員) 毎年の推移が見えるのは大事。参加型は減っているにもかかわらず、オンラインでの講師派遣やホームページのアクセスなど、インターネットを通じてのニーズが増えている。

(篠田委員) 最近アンケートなどで、QRコードを読み取って回答する形式が増えているが、博物館ではどうなのか。

(事務局) 今年度、市で LOGO フォームというシステムを導入した。博物館においても、今年度中にそのシステムを活用した来館者アンケート等の試行に取り組みたいと考えている。

(篠田委員) QR コードでアンケートを求めても、逆に回答数が減ってしまったと聞いたこともある。やるとしても紙のアンケートは残してほしい。

(岩野委員) 両方あれば、帰宅した後で出せるという利点もあるので、参加者側としてもいい。

(事務局) どちらか一つにしてしまうと、回答できない方が出てくるため、両方できるように準備をしていく。

(事務局) 有識者意見で、「分野を横断した総合的な企画展もあった方がいいのではないか」等のご意見については、天文企画展に民俗分野の展示をとりいれたり、生物展に地質の展示など、総合的な展示を部分的に取り入れている。また、実現はしなかったが、今年度は歴史分野と地質分野をコラボした企画の構想もあった。

いただいた意見を反映し、よりよい活動ができればと考えている。

(岩野委員) 分野を超えた総合展示が少しでも増えるようご検討いただきたい。

(五十里委員) 高校生にも教科横断型授業が始まり、「STEAM 教育研究指定校」に選定された。授業も教科横断型の視点で進めていくのだが、STEAM 教育は課題発見解決学習であるため、自然科学の分野だけではなく、すべての分野で5教科を横断しながら課題発見解決学習を行う中で、このような切り口の展示をしてもらえると、教員も生徒も見方や考え方が広がるので、こういった面からも刺激をもらえればと思う。

(事務局) まだ聞きなれない言葉かと思うが、STEAM 教育とは、Science (科学) Technology (技術) Engineering (ものづくり) Art (芸術) Mathematics (数学)、これに加え経済や倫理等も含め「STEAM 教育等」として、教科横断的な学習を進め、「生きる力」「考える力」を育てていくという文部科学省の取組み。博物館としても JAXA 等と協力する中で、この考え方をひとつの切り口として考えている。

(大貫委員) 評価というのは博物館を設置している側、理事者に対して、どれだけ投資するのに価値があるのか、財源の配分が適正であるかを判断する材料。1-11 に展示リニューアルとあるので、入れ込んでほしい。

(岩野委員) 常設展示室のリニューアルは毎回のように出ている意見。すぐにはできないということも承知しているが、手をこまねいているだけではよくないと思う。有識者意見にもあるが、ミニ展示が終わったら、常設展示と入れ替えるなど、アイデアを出して、展示が変わったと思えるように検討してほしい。

(事務局) 教育委員会、また市全体に対してビジョンを示すというところから一歩が始まると痛感しているところである。委員のみなさんの意見をいただきながら博物館の考えを形として示せるようにしていきたい。

(岩野委員) 一市民とすれば、開館 30 周年に向けてエポックメイキング的なイベントになるとすれば、そういうところに予算を付けていただくとしたり、常設展も一緒にリニューアルできれば、一時的なイベントだけでなく、それをきっかけとして新しく変わっていくような博物館になるともっと嬉しい。

(藤田委員) 今年度、市内小中学生の発表の場である「造形風っ子展」を担当したが、予算の都合でできないこともあった。クラウドファンディングなどを検討したりした。子どもたちは毎年変わっているので、現状でも楽しめているが、変えていかないといけない。さきほど QR コードの話題が出たが、アンケートだけではなく、解説にも QR コードを使うことで、今は一人一台ずつタブレットを持って見学ができるので学習が深まる。

(事務局) 今年度中に館内に Wi-Fi 環境を整備する予定があり、整備後は、市が契約しているアプリを活用し、展示解説をご覧いただけるようにコンテンツ作りを並行して行っていきたいと思っている。一度に全部をというわけにはいかないの、徐々に充足していけるよう取り組む。

(岩野委員) Wi-Fi が整備されることで、できることの幅が広がると思う。

(岩野委員) 宇宙教育普及事業の展開について、市民評価のほとんどが好意的な意見だということだが、批判的な意見にはどのようなものがあったのか。

(事務局) JAXA との連携事業については、JAXA のファンの方が来館することが多いため、好意的な意見がほとんど。批判的な意見は、解説パネルの文字が小さい、室内が暗いなど。そうした意見は、その都度改善を図っている。

(岩野委員) コロナ禍の中、はやぶさ 2 に関するタイムリーな企画ができたのはよかった。関心の高い企画は、市民が期待している。実物を見られたのが良かったという意見が反映されたアンケートであると思う。

(篠田委員) プラネタリウムの「おためしタイム」はどのようなものなのか。

(事務局) 委託業者からの提案事業で、プラネタリウムを気軽に試してもらおう企画。日曜日と祝日の正午から約 10 分間の番組を季節ごとにテーマを変えて上映している。観覧料は無料。

(大貫委員) 「宇宙教育普及事業を展開」したのは、他の施設との連携事業ではなく教育普及事業から、特出ししたものなのか。プラネタリウムの設置

は、生活者が宇宙や気象気候について身近に感じることができる科学するために作られたもの。天文分野の活動展示の基本は天体観測である。天体観測が夜間に限られてしまうため、何らかの形で補えるのかを考えた結果がプラネタリウムである。ツールの一つとして行った。身近なグループが行っている天体観測、また旧青根小学校には天体観測ドームがあった。若あゆの活動に対して博物館がどのようにアプローチできたのか。気候変動について、人の生活と宇宙の関わり、天体とのかかわりなどと、市民活動をうまく結びつけるようにしなければならない。それが有識者意見の最後にある「JAXA との連携も重要であるが、JAXA に頼らない独自の企画を展開」につながるのではないかと。

(岩野委員) 大変貴重な意見。宇宙教育とはいえ、気候変動など幅広く見ていかなければならない。

(事務局) 天文を担当する学芸員のうち1名は気象予報士の資格を有しており、今年度、公民館を会場に、気候変動に関するオンライン講座を行った。今後も資格を生かした事業などを展開していきたいと話している。引き続き、いろいろな視点から、より充実した内容で事業を展開していけたらと考えている。また、若あゆとの連携事業も今年度から始めたところである。

(山本委員) 天文展示室は画面が大きい展示が特徴で、宇宙の中にいるような感覚で展示を見られたりするのがいいと思う。

プラネタリウム番組がいつも同じ時間に同じものを行っているので、時間を合わせられず見ることができないことがある。ランダムになっていたら見に行きたい。

また、YouTube でプラネタリウム番組の予告編があったらどれを見るか選びやすい。

(事務局) 公式チャンネル「ネットで楽しむ博物館」で、番組案内の動画は流している。

(岩野委員) 見たい番組が見に行ける時間にやっていないこともあるので、市民評価にもあったと思うが、検討してもらえるとよい。

(浜田委員) 「宇宙教育普及事業」は博物館開館時の原点は「天文教育普及事業」としていたもの。JAXA があり、全国に誇れる活動だと思うので、「宇宙教育普及事業」でもいいと個人的には思う。「宇宙の中のわたしたち」という開館当初の理念に基づいて天文と気象をベースに事業を行っていくと相模原市立博物館らしい展示ができていいのではないかと。

(事務局) 「宇宙教育普及事業」は、平成24年度に市のトップマネジメント会議に打ち出し、それ以降、市の総合計画にも位置付けられている事業。

現在も教育振興計画などに掲載されている。

(岩野委員)「貸出キット」について、認知度は低いが使った学校からは好評であるとあるが、どのようなものをどのくらい貸し出せるのかという情報提供をどの程度やっているのか。

(事務局)もともと先生方が利用しているイントラネットには掲載しているが、今年度は相小研社会科部会へ働きかけを行った。

今後、実際にキットを使用した模擬授業の様子を記録する取組みを始めたい。貸出キットは社会科だけではないので、今後、理科部会、国語部会へも広げていきたい。

実物を見ることで、学習を広げていただければと思っている。

(岩野委員)子どもが実際に手に触れることで、教育効果が違うと思う。それには「貸出キット」があることを先生方の知ってもらうことが大事。ぜひ映像等による情報提供を積極的に検討してほしい。

(事務局)今年度、勝坂式土器などを含んだ貸出キットを新磯小学校が利用したところ、現物を見せながら授業を行うことで、郷土に対する誇りも高まったとの感想をもらった。

(浜田委員)学校との連携について。市内の小学校等に郷土の資料を集めた「資料室」がどの程度あるのか把握しているか。また、博物館として支援しているのか。

(事務局)昨年度、とある学校側から支援を求められ、学芸員が助言等を行ったことはあるが、現状では市内の学校の「資料室」の数の把握はしていない。

(浜田委員)学校には博物館にない良い資料もたくさんあるので、把握をして支援してほしい。

(事務局)企画展などで学校から資料を借りて展示することはあるが、こちらから関わることはなかった。市内の学校の状況について把握していきたい。

(大貫委員)市民協働ということで、基本はあくまでボランティアではなくパートナーである。博物館における学習主体あるいは自己教育主体は、市民であり住民である。学芸員はそれを支援するというような発想で、対等な立場で進めてほしい。「ボランティア」という響きはよくない。

(事務局)当館では、ボランティアのみなさんは、活動を共に進めていくパートナーであり、対等な立場という認識で「ボランティア」という用語を使っている。

(大貫委員)「ボランティア」というと「下請け」という意識が参加者に出てしまう。主体は市民。用語の使い方を考えてほしい。

また、博物館に来る市民の方を「お客さん」といつているのを聞くと、違和感がある。

(吉川委員) 公民館でも地域の方、市民の方という言い方をするので、「お客さん」ではないのではないか。

(岩野委員) 言葉の使い方について事務局はどう考えているのか。

(事務局) 市全体で「接遇」ということを重視してきているので、ある面「お客さん」という部分もある。特にプラネタリウムにお金を払って見てもらっているというところもあり、切り分けるのが難しいところもある。普段は「来館者」「利用者」という使い方をしているが、説明する場面などで便宜的に「お客さん」という言い回しになることも。

(大貫委員) 単純に考えて、公民館・図書館・博物館の社会教育3施設のうち、博物館だけが客という言い方をする。

(岩野委員) そういうご意見もあるので、使い方に注意を。

(岩野委員) 4-2 の有識者意見には、どれも大事なことが書かれている。一步踏み込んで進められるかによって、認知度を上げられるのではないか。博物館の取組み、具体化は職員がいくらでも考えられるはずなので、少しでも還元できるような具体策を考えてほしい。

(山本委員) 博物館のホームページを若者がスマホで見たときに、続けて見てもらえるよう縦型にする、色使い、フォントの変更を。

また YouTube は最後まで見るかどうか、初めの 30 秒が大事なので、さきほどの番組紹介の動画の場合、キャラの自己紹介は後でもいいと思う。

YouTube しか見ない世代もいるので、限定公開を外し、YouTube からホームページに行くようにすると思う。

(岩野委員) 自分の大学でも同じ意見があった。ホームページにたどり着くまでに階層が深いので、そこも見直しも。

(事務局) 現行のホームページは、H25・26 年に、神奈川工科大学のみなさんとの協働事業で作成したもの。デザイン・レイアウトなどに加え、更新のしやすさにも重点を置き、大学生のみなさんと作成したものだが、すでにそれから 10 年近く経過しており、見直しの必要性を感じている。

(事務局) いただいたご意見を、評価書案に反映する。改めてチェックをお願いしたい。チェックについては岩野会長に一任してよろしいか。

<委員一同了承>

(2) その他

(事務局) 市の事業で、市内出身の人気声優の畠中祐さんにプラネタリウムの上映前のアナウンスや閉館のアナウンスを事前収録していただけることになった。11月ごろから放送予定。こうした取組みを契機に、さらに博物館の認知度を上げていきたい。

次回は令和5年2月から3月に開催予定。

以上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	藤田 博己	市立大野台小学校校長		出席
2	五十里 雅子	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会副会長		出席
4	篠田 春美	市P T A連絡協議会副会長		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	前日本大学生物資源科学部特任教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授		出席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所副所長		欠席
9	山本 幸奈	公募委員		出席
10	中里 真紀子	公募委員		欠席